

トカラ列島近海の地震活動の再検測による震源分布

(2025年6月21日～7月6日：有感地震のうち初動を精度良く検測可能な地震のみ・515個)

調417-(3)-11
鹿児島大学

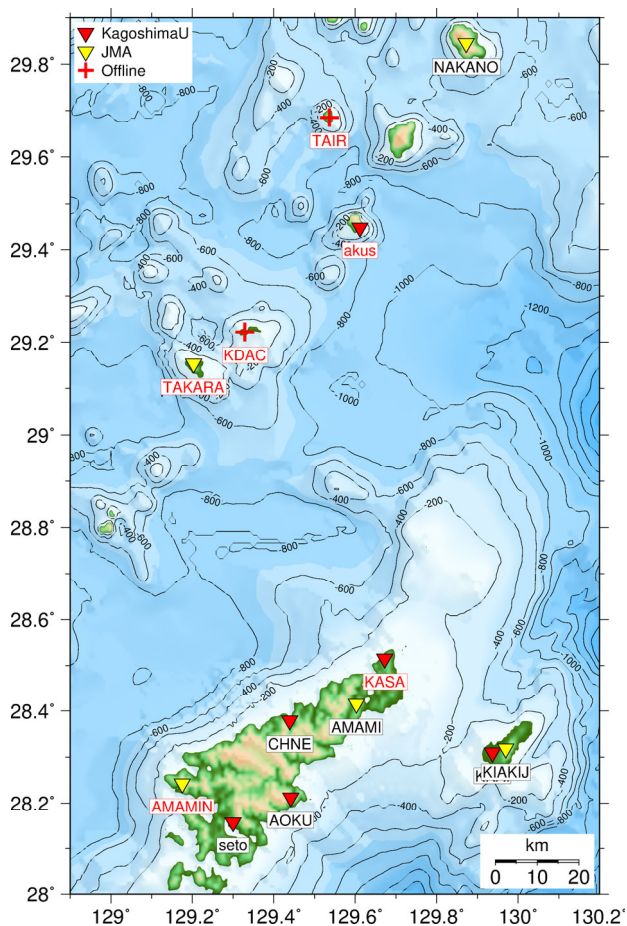


図1 地震観測点配置 (JMA, KagoshimaU)

鹿児島大学の akus, KASAKA, 気象庁の TAKARA, AMAMIN の4観測点 (観測点名が赤文字) にオフライン (鹿児島大学) の KDAC, TAIR を追加してP・S波検測の組み合わせを固定し、震源を再決定した (オフラインデータ回収：7月12日) . 有感地震のうち、直前の地震との重なりが無い、かつ初動の検測精度が良い地震のみを対象とした。

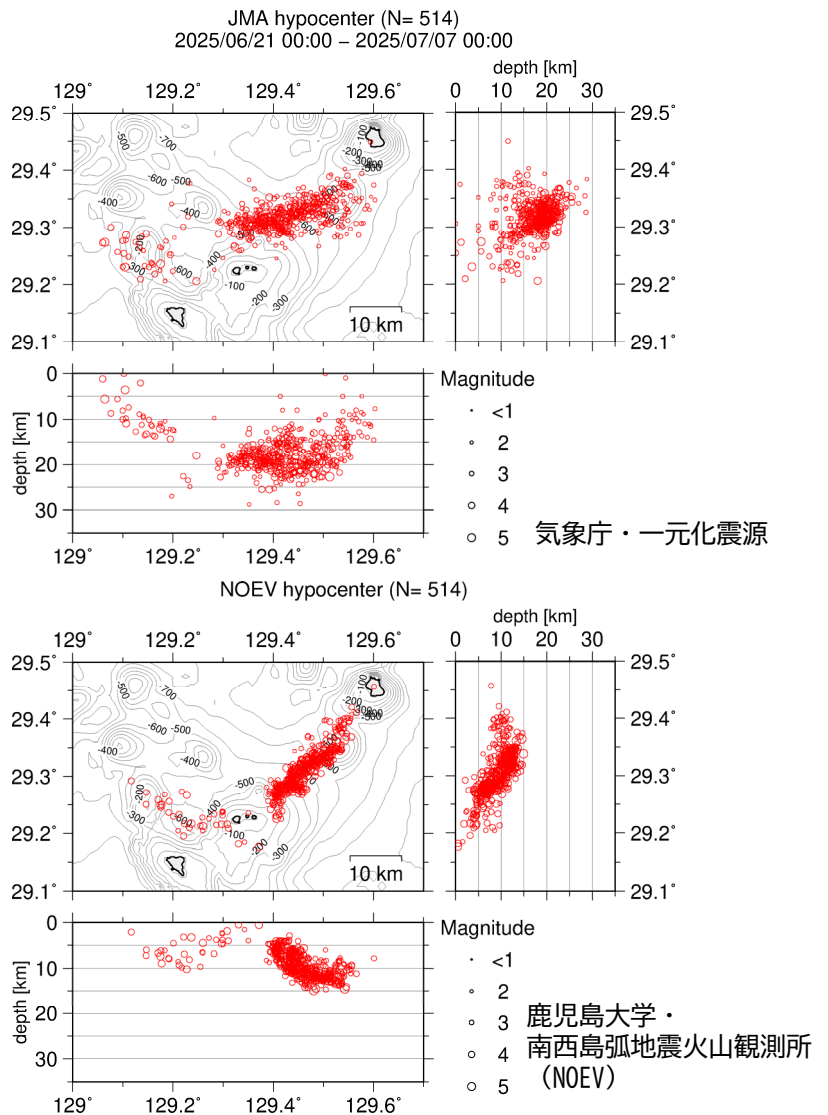


図2 一元化震源の分布 (上) と再検測震源の分布 (下)

NOEVの震源決定には角田・他(1991)の1次元速度構造を適用した。

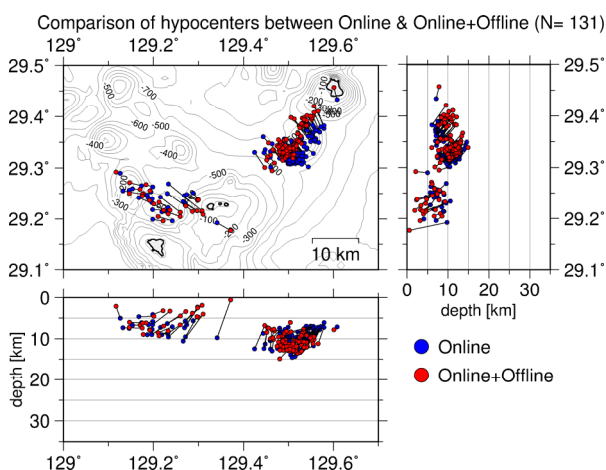


図3 オンライン観測点のみ (青), 及びオフライン観測点を加えた場合 (赤) の再検測震源の比較

7月定例会で示した7月2～4日の有感地震131個について比較した。

北東クラスタに属する地震の深さはやや深めに、かつ北西側の震央は南東側に、南東側の震央は北西側にシフトする傾向を呈する。南西クラスタに属する地震の深さは浅めに、かつ東南東から東にシフトする傾向が認められる。

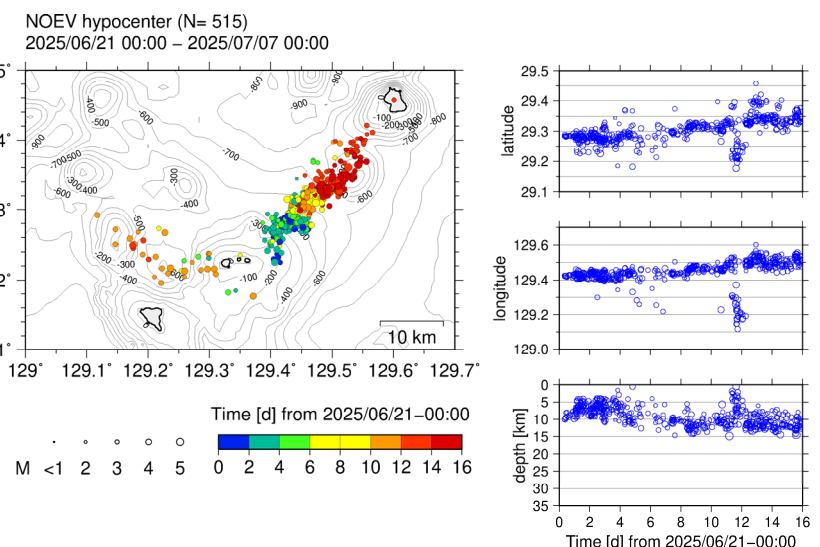


図4 再検測震源 (オンライン+オフライン観測点データ) の時空間分布

震央分布の色の違いは、発生時刻に対応する。右側には緯度、経度、深さ方向の時間変化を個別に示す。緯度、経度方向で孤立した地震群は7月2日に集中した南西クラスタの活動である。この活動を除けば、主活動域の概ね南西から北東への移動が認められる。